

臨床美術学会 第14回大会 2023

開催要項

大会テーマ

包括的ケアとしての臨床美術の可能性

2023年11月18日（土）・19日（日）



臨床美術学会

The Society for Clinical Art

臨床美術学会 第 14 回大会 2023

大会テーマ

包括的ケアとしての臨床美術の可能性

日時 11月18日(土) 12:00~16:45 オンライン(Zoom)開催

※17:00~18:00 交流会(任意参加)

11月19日(日) 10:00~13:00 オンライン(Zoom)開催

主催 臨床美術学会

共催 日本臨床美術協会 / 株式会社芸術造形研究所

大会長 木戸 修

大会長挨拶

木戸 修

(彫刻家 臨床美術学会長 日本臨床美術協会理事長 東京藝術大学名誉教授)

今年度の学会大会テーマは「包括的ケアとしての臨床美術の可能性」です。

1996年に臨床美術の活動が始まり、2009年に臨床美術学会が発足しました。学会では発足以来より学会員、臨床美術士、研究者など多くの方々の臨床美術の多岐にわたる活動記録の発表がなされてきました。しかし2020年初頭から世界中に蔓延した新型コロナの影響は大きく、学会大会も2020年には大会中止、2021年から2023年の今回の大会までオンライン開催を余儀なくされる事態となっています。けれどその間も臨床美術の活動自体はさまざまな制限を受けながらも、それらを乗り越えてオンラインなどを活用し着実に成果を上げてきています。

この数年の社会の変化で我々の意識も大きく変化しました。現代の科学の力で病気をある程度コントロールできると思っていたのが、新型コロナという微生物に由来する自然現象によって幻想であったと気づかされたこと、世界的な今年の異常な夏の暑さは二酸化炭素排出量増加による地球温暖化の段階が一段と上がった予兆かもしれないと考えざるをえないこと、ロシアとウクライナの戦争によって世界の経済が大きく変化し、今後の世界情勢の不透明感が増大していると思われることなど、地球規模での社会変化が私たちの生活に密接に関係し、大きな影響を受けていることに改めて気づかされました。

最近の臨床美術学会大会テーマを振り返ってみると、2019年のテーマは「人の生 (life) を支える臨床美術の力」、2020年学会大会に代わるシンポジウムのテーマは「コロナ禍における臨床美術の可能性を探る ～今、必要とされる創造性とコミュニケーション～」、2021年テーマは「作品世界とメッセージ」、2022年「アート思考×臨床美術 ～いま社会に求められるアートの役割～」となっています。社会における臨床美術の活動はどうあるべきかという問題意識が幅広く根柢に流れています。

福祉の立場からの視点、科学的な知見、美術表現の考察、実施現場での体験記録、介護活動との連携、そのほか多岐にわたる綿密な考察や検証が臨床美術の活動には必要とされます。1996年の臨床美術の活動が始まって以来の多様な活動の成果や実績は大きな資産となっています。臨床美術の活動を自由な大きな視点でとらえる今回の大会テーマ「包括的ケアとしての臨床美術の可能性」は、更なる臨床美術の活動の発展に資するに相応しい大会テーマです。大会では臨床美術の立ち上げからその活動を支えている関根一夫牧師を座長とするシンポジウム、精神外来診療でアートを活用している玉井顯 医療法人敦賀温泉病院理事長の特別講演、日々実践している多数の学会員の研究発表、新たな試みの会員自らの企画に

よる自主シンポジウム、参加者同士の交流会などを行います。多くの方の参加のもと充実した学会大会になることを願っています。

臨床美術学会 第14回大会 2023 ご案内

大会テーマ

包括的ケアとしての臨床美術の可能性

開催日程 2023年11月18日(土) 12:00~16:45

※17:00~18:00 交流会(任意参加)

2023年11月19日(日) 10:00~13:00

開催方法 オンライン(Zoom)開催

主催 臨床美術学会

共催 日本臨床美術協会 / 株式会社芸術造形研究所

大会長 木戸 修(彫刻家 臨床美術学会長 日本臨床美術協会理事長 東京藝術大学名誉教授)

11月18日(土) タイムテーブル

| 時間 | 内容 |
|-------------|---|
| 11:30~ | 受付 (Zoom) |
| 12:00~12:15 | 開会式 |
| 12:15~14:15 | 大会シンポジウム「包括的ケアとしての臨床美術実践」 座長 関根 一夫 (医療法人社団信悠会木村クリニック理事 / MACF 牧師) シンポジスト 川久保 悦子 (城西国際大学 看護学部 准教授) 佐藤 敏美 (臨床美術士 / 医療法人社団北條会デイケアうさぎ 臨床美術チームリーダー) 馬淵 聖子 (凸版印刷株式会社 人事労政本部 ダイバーシティ推進室 課長) |
| 14:15~14:30 | 休憩 |

| | |
|-------------|-----------|
| 14:30～16:30 | 研究発表 |
| 16:30～16:45 | 事務連絡 |
| | |
| 17:00～18:00 | 交流会（任意参加） |

11月19日（日）タイムテーブル

| 時 間 | 内 容 |
|-------------|---|
| 9:30～ | 受付（Zoom） |
| 10:00～11:20 | 特別講演 演 題「脳および精神科医療からみるアート ～精神科外来におけるアートとの関わり～」 講 師 玉井 顯（医療法人 敦賀温泉病院 理事長） |
| 11:20～11:30 | 休憩 |
| 11:30～12:50 | 自主シンポジウム |
| 12:50～13:00 | 閉会式 |

※プログラムは変更になる可能性がございます。

※インターネット環境を使い、オンライン（Zoom）での開催となります。

詳細は14ページをご参照ください。

11月19日(日) 10:00~11:20

特別講演

脳および精神科医療からみるアート～精神科外来におけるアートとの関わり～

講師 玉井 顯
(医療法人 敦賀温泉病院 理事長)

今回臨床美術学会大会の特別講演ということで、まず、脳とアートについて考えてみます。

大脳は大きく分けると、左右の脳と前後の脳に分けられます。後方の脳はインプット、情報を入力する働きをし、前方の脳はアウトプット、後方からの情報を受け考えて行動する働きをします。一方、左右の脳の働きは、左脳は言語的、分析的、論理的、部分的、計算的つまりエビデンス的であるのに対して、右脳は非言語的、直観的、全体的、感情的、創造的つまりナラティブ的であると思われます。一般にアートは創造性とは言われていますが、計算され論理的に作り出される場合もありますし、直観的、創造的に作り出される場合もあります。脳にはあらゆるネットワークがあり、左右の脳も脳梁でつながっています。アートは、右脳だけ左脳だけで担うものではなく、左右の脳がお互いを補完し総合的に作り上げているものと思います。

演者は日々精神科外来をしています。アートは診断や治療、評価やリハビリテーションなどに関わりがあります。その一部を紹介します。

左の脳梗塞により右片麻痺を生じ意欲をなくし抑うつ状態になった70歳代の男性です。ある画家が右利きなのにあえて左手で絵を描いていることを紹介し、左手で絵を描いてみたらと勧めたところ、外来時にはいつも描いた絵を持って来られるようになりうつ状態が改善していきました。統合失調症、30歳代の男性。幻覚、妄想で日常生活にも支障をきたしていた方ですが、自分の思考を評価することと絵を描くことを勧めたところ、症状は改善し展覧会にも作品を出すようになりました。その他、発達障害や不安障害の方の作品をいくつか紹介します。

また、外来ではその場で、実のなる木を描いていただく検査、バウムテストも行っています。レビー小体型認知症の方には人や動物の幻視を描いていただくこともあります。お化粧もアートと思っていますが、発達性相貌失認の方は全く化粧には興味を持ちません。また、何でも人の顔に見えてしまう「パレイドリア」はなく人の顔を描くのも苦手です。診察室には、トリックアートや旬のものを飾りつけしたり記憶のチェックや認知機能の評価をさりげなくしています。診察室もアート、トリック満載にしてあります。

このように精神科外来では様々な形でアートが活躍しています。振り返ってみると、外来でアートを続けている皆さんはより健康な状態（サルトジェネシス）になっており、ウェルビーイング（心理的、社会的幸福感）を得ているように思えます。

<プロフィール>

所 属 医療法人敦賀温泉病院 理事長・院長
氏 名 玉井 顯（たまい あきら）
生年月日 昭和 29 年 2 月 7 日



職 歴

1979 年 金沢医科大学病院 神経精神医学教室 入局
1981 年 金沢医科大学病院 神経精神医学教室 助手
1986 年 神保健指定医 取得
1989 年 医学博士学位 取得
1989 年 金沢医科大学病院 神経精神医学教室 講師
1990 年 医療法人敦賀温泉病院を開設 理事長・院長
1998 年 介護老人保健施設「ゆなみ」を開設
2009 年 認知症疾患医療センターの指定を受ける
2015 年 静岡大学客員教授

教育に関する特記事項

1990 年 金沢医科大学 神経科精神科 非常勤講師（現在に至る）
1998 年 福井大学医学部 神経科精神科 非常勤講師（現在に至る）
2014 年 敦賀市立看護大学 非常勤講師（現在に至る）
2014 年 平成 26 年度介護相談員現任研修Ⅱ 講師

学会における活動

- 1995年 日本神経心理学会 評議員 (現在に至る)
- 1995年 日本高次脳機能障害学会 評議員 (現在に至る)
- 2006年 日本老年精神医学会 評議員・専門医・指導医 (現在に至る)
- 2011年 日本精神神経学会 専門医・指導医 (現在に至る)
- 2011年 日本認知症学会 専門医・指導医 (現在に至る)
- 2020年 日本認知症ケア学会 代議員 (現在に至る)
- 2022年 日本安全運転医療学会 理事 (現在に至る)
- 2023年 日本臨床美術協会 理事 (現在に至る)

社会的活動

- 2013年 日本精神科病院協会 高齢者医療・介護保険委員会 委員 (~2021年)
- 2014年 福井県精神医療審査会 委員 (現在に至る)
- 2013年 敦賀市医師会 理事 (~2021年)
- 2005年 認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議 専門協力員 (~2014年)
- 2005年 認知症サポーター調整講師(キャラバン・メイト) (現在に至る)

その他(啓発、会議、TV出演など)

- 2012年 NHK クローズアップ現代「帰れない認知症高齢者 急増する精神科入院」
- 2013年 NHK チョイス@病気になったとき「認知症とわかったら」
- 2014年 NHK おはよう日本「認知症行方不明者 1万人 身近な場所に潜むリスク」
- 2014年 NHK 視点・論点「認知症を考える」
- 2018年 第1回認知症国際アジア会議 in 加賀 円卓会議 出席
- 2019年 第2回認知症国際アジア会議 in 加賀 円卓会議 出席
- 2019年 日本テレビ ザ!世界仰天ニュース「人の顔がわからない不思議SP!」
- 2020年 第3回認知症国際アジア会議 in 加賀 円卓会議 出席
- 2022年 第4回地域共生社会推進全国サミット in つるが シンポジスト
- 2023年 フジテレビ めざまし8「画期的アルツハイマー新薬 米承認」

11月18日(土) 12:15~14:15

大会シンポジウム

テーマ「包括的ケアとしての臨床美術実践」

座長 関根 一夫 (医療法人社団信悠会木村クリニック理事/MACF 牧師)

シンポジスト 川久保 悦子 (城西国際大学 看護学部 准教授)

佐藤 敏美 (臨床美術士/医療法人社団北條会デイケアうさぎ

臨床美術チームリーダー)

馬淵 聖子 (凸版印刷株式会社 人事労政本部ダイバーシティ推進室

課長)

座長からのご挨拶

1996年大宮市医師会市民病院で開始された臨床美術。当初は認知症の患者さんたちへのリハビリプログラムとして提供されました。

その後、介護しておられるご家族の方々への心のケアとして拡大し、保育園、小学校、大学、また会社の中でも展開され、まさに、その活動はほとんどの年齢層のための「臨床美術」として「包括的なケア」を意識しつつ拡大、浸透すべきことが明らかになっています。

今回シンポジウムのテーマとして「包括的ケアとしての臨床美術実践」が選ばれましたが、まさにタイムリーなものだと思います。

そしてシンポジストはそれぞれ「臨床美術の実践」について別々な角度から取り組んでおり、臨床美術が「人間存在に対して、どういう意味を持ち、どういうケアを提供できるのか」大学の学問として、会社の人事的な側面から、医療福祉の現場からの発題をいただき、皆様と理解を深めあい、その可能性を探りたいと願っています。

臨床美術を愛し、臨床美術を育み、臨床美術を分かち合っている皆様と一緒にじっくり臨床美術と包括的ケアについて分かち合いたいと願っています。

私は幸いにも臨床美術の第一回目から現場に立ち会うことができました。

ただ、私の役割は介護しておられるご家族へのケアということだったので、自分自身が臨床美術そのものに触れる機会を得たのは今から十数年前のことでした。金子健二先生がご存命の時、臨床美術の手解きを受けることを考えることもせず、後になってこんなに心がワクワクする美術活動だったのかと分かった時、遅い気づきに自分を悔やみました。

しかし、それまでは「いてくれてありがとう」を現場での人間関係のみに適用すれば良いのではないかという意識で教えてきた「存在論的人間観的人間観」が、実は人間関係のみならず、臨床美術の現場では「素材」にたいしても「作品そのもの」に対しても「いてくれてありがとう」という意識が成長し、自己肯定感が単に人間関係からだけではなく、作品制作そのものを通して大いに増していくものなのだという発見がありました。

セッションそのものが「いてくれてありがとう」に溢れる場になっているのだと感じた時、そこには温かいケアの心の存在も否定できないものなのだと思います。臨床美術のセッションは「いてくれてありがとう」に始まり、「いてくれてありがとう」で次へと向かっていくのだと思います。

どうぞ、シンポジウムをお楽しみください。

11月18日(土) 14:30~16:30

研究発表

本大会では、本学会の趣旨に沿った臨床美術および周辺領域に関する内容（理論研究、実践研究、調査等）についての研究発表（オンライン形式）を一般募集します。

臨床美術学会設立以来、学会員や大会参加者も増加し、研究や実践フィールドも多岐に亘ってきています。本学会では、コロナ禍による感染予防のため、オンライン形式による研究発表を開始し、より多くの学会員、参加者の研究発表・交流の場を設けております。

研究発表は、発表者が研究内容をパワーポイント等のプレゼンテーションツール（動画含む）にまとめ、発表します。

指定された時間の間、発表者は、オンライン画面共有にて研究内容を発表し、座長や参加者と直接的な質疑応答を行い、学術的な見識を深めたり、問題を共有化したり、参加者間の研鑽の機会とします。

また、発表者は研究発表論文概要へ論文掲載をしていただきます。
研究発表の申し込み方法については、13ページをご覧ください。

研究発表① 14:30~15:30

研究発表② 15:30~16:30

※研究発表申し込み題数により、分科会方式となる場合がございます。

・研究発表を申し込まれる方は、研究発表申込（研究発表資料製作費）として、2,200円（税込）の費用がかかります。

・参加者として研究発表に参加される方は、参加費は無料です。

11月19日(日) 11:30~12:50

自主シンポジウム

本大会では、学会初の試みとして、学会員の皆様から広く自主シンポジウムの企画を募集します。

自主シンポジウムとは、学会員自らが自主的に、本学会の趣旨に沿った臨床美術に関わるテーマ、司会者、話題提供者、を設定し運営するシンポジウムです。

今大会の自主シンポジウムは、オンライン形式で実施され、11月19日(日) 11:30~12:50の80分間の開催を予定しています。

ぜひ、学会員の皆様方が関心を持つテーマを設けて、参加者間のディスカッションを深めていただけるよう、ご応募いただければと思います。

自主シンポジウムは、司会や話題提供者がそれぞれ発題の内容をパワーポイント等のプレゼンテーションツール(動画含む)にまとめ、Zoomの画面共有にて発表していただきます。開催時間内の進行、話題提供、参加者と質疑応答等は、各企画者が自由にお決めください。また、自主シンポジウムの企画趣旨や話題提供内容は、研究発表論文概要へ掲載します。自主シンポジウムの申し込み方法については、18ページをご覧ください。

※自主シンポジウム申し込み題数により、分科会方式となる場合がございます。

・自主シンポジウム企画を申し込まれる場合は、企画者がお申し込みください。本大会の申込につきましては、申込費用は無料です。

・参加者として自主シンポジウムに参加される方についても参加費は無料となります。

11月18日(土) 17:00~18:00

交流会(任意参加)

本大会では、終了後に参加者間交流を目的とした交流会を開催します。

Zoomのブレイクアウトセッション機能を用いて小グループでの交流や情報交換をしていただき、臨床美術に関わる様々な話題についてコミュニケーションを図って頂く機会としていただければと思います。

開催方法 オンライン(Zoom)開催

臨床美術学会 第 14 回大会 2023 参加申し込みのご案内

1. 大会参加申し込み方法

(1) 大会参加費（税込）

| 申込区分 | 参加費（事前登録のみ） |
|----------|-------------|
| 臨床美術学会会員 | 5,500 円 |
| 非会員 | 7,700 円 |
| 学生 | 3,300 円 |

※日本臨床美術協会のみにご所属の場合は、非会員の申込区分になります。

参加申し込みの際、臨床美術学会の会員登録の有無を今一度ご確認ください。

(2) 各種参加・申込費

- ・研究発表申込（研究発表資料製作費として）：2,200 円（税込）
- ・自主シンポジウム申込：（会員・非会員・学生共通）：無料
- ・交流会参加費（会員・非会員・学生共通）：無料

(3) 申し込み方法

事前参加登録はオンラインで受付いたします。

臨床美術学会ホームページ「学術大会・イベント情報」ページ内にある参加登録ページにアクセスし、登録画面の必要事項をご記入の上、ご登録ください。

後日、事務局より「参加登録受付」メールを返信いたします。

※メールが届かない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

事前参加登録申込締切：2023 年 10 月 27 日（金）

注）本大会では、当日参加受付は行いません。

参加をご希望の方は、必ず期限までに事前参加登録をお願いいたします。

(4) お支払方法

参加登録申込後、ご登録いただきました E-mail アドレスに「参加登録受付メール」が届きます。お支払内容・振込先等をご案内しておりますので、ご確認ください。

各種参加費入金締切：2023 年 11 月 2 日（木）

(5) 参加申し込み内容の変更・キャンセルについて

大会参加費・研究発表参加費（研究発表資料製作費）は返金いたしませんので、予めご了承くださいませようお願いいたします。

また、事前参加登録申込後、各種参加費入金締切日までにお支払いがない場合は、キャンセル扱いとなりますので、あらかじめご了承ください。

(6) Zoom の招待 URL および研究発表概要送付について

入金締切後、ご入金を確認できた方に Zoom 招待 URL、および資料等をメールにて配信いたします。

メール配信日：11月10日（金）

(7) オンラインでの参加方法について

- ・有線 LAN または Wi-Fi などインターネット接続環境が必要です。
- ・パソコンまたはタブレットなどの機器をご準備ください。
- ・事前に Zoom アプリをパソコンまたはタブレットにインストールしてください。
- ・研究発表者は、カメラ、マイクが必要です。

2. 研究発表（オンライン形式）申し込み方法

(1) 申し込み方法

研究発表申込はオンラインでの大会参加申込時にご選択して頂く形で受付いたします。登録画面の参加オプション「研究発表タイトル・要旨」をご記入の上、登録してください。

研究発表申込締切：2023年9月20日（水）

(2) 研究発表受理確認

お申し込みいただいた発表内容は、大会本部にて確認させていただきます。「発表受理」となりましたら、研究発表代表者の E-mail アドレスに発表受理のメールが届きます。発表受理の E-mail が 9 月 21 日（木）までに未着の際は事務局までお問い合わせください。

(3) 研究発表論文概要原稿送付

研究発表論文概要原稿は下記 E-mail アドレスに PDF 形式のファイルを添付しお送り

ください。研究発表論文概要に関しては、誤字・脱字・変換ミスを含め、原則として事務局では校正・訂正を行いません。完全原稿としてそのまま掲載されますので、送信者の責任において確認してください。

また、送付締切り後の原稿の変更は一切できません。重要事項の記載漏れのないよう、十分ご確認ください。

作成時の詳細につきましては「研究発表論文概要原稿作成／送付要領」をご高覧下さい。

受付 E-mail アドレス：gakkai@arttherapy.gr.jp

研究発表論文概要原稿 送付締切：2023年10月19日（木） 15:00（必着）

3. 研究発表（オンライン形式）について

● オンライン形式による研究発表とは

研究発表内容をパワーポイントなどのプレゼンテーションツール（動画含む）にまとめ、オンライン上にて、画面共有で資料を提示しながら発表する発表形式です。

(1) 研究発表資格要件

研究発表代表者は、原則として以下のいずれかに該当する者とします。

- ①臨床美術学会会員
- ②日本臨床美術協会会員
- ③その他、臨床美術実践者等

*②、③の方が発表代表者となる場合は、必ず本学会会員が連名発表者で加わることが条件となります。

(2) 研究発表に関する制限

発表代表者となる場合、1人1発表に限ります。連名発表者となる場合は、複数の発表でも構いません。発表する研究は未発表のものに限ります。

(3) 研究発表申込とその受理

研究発表で発表する代表者は、指定された期日までに「大会事前参加登録申込」「研究発表申込」「大会参加費および研究発表参加費の納入」を行なってください。なお、前述のいずれかに遅れや不備等があった場合、研究発表申込が受理されないことがあります。

ます。

(4) 研究発表論文概要への原稿の提出

発表代表者は、指定された期日までに研究発表論文概要の原稿を提出してください。

原稿の作成及び送付方法については、22 ページからの「**研究発表論文概要・自主シンポジウム原稿作成／送付要領**」に従ってください。

(5) 研究発表方法

大会当日、研究発表代表者は、指定された発表時間に座長の指示に従って、Zoom にて画面共有でご発表ください。発表者の持ち時間は1題につき、発表 12 分/質疑応答 3 分となります（発表説明責任時間）。本大会では発表申し込み題数によって、研究発表① 14:30～15:30/研究発表② 15:30～16:30 に振り分けます。詳細は申込後、追ってご連絡いたします。

原則として、連名発表者も討議に参加するようにしてください。

(6) 研究発表データ作成について

研究発表データは、「研究発表論文原稿作成／送付要領」の内容に照らし合わせて、パワーポイントほか類似するプレゼンテーションツールで作成してください。映像、動画なども用いて構いません。参加者へ研究発表内容がより伝わるよう創意工夫をしてください。

研究発表は発表者自身で PC 等を操作して行ってください。

事前に必ず Zoom ミーティングにて画面共有が可能か、ご自身で動作確認をしてください。

(7) 研究発表の正式認定について

研究発表は、「①研究発表論文概要への原稿の掲載」、「②オンラインでの発表」、「③質疑応答への参加」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。「発表説明責任時間」の変更はできません。

(8) 研究発表申込から研究発表までの流れ

| |
|--|
| 研究発表申し込み締切：9月20日（水）（学会 HP より） |
| ↓ |
| 研究発表受理確認 メール発信：随時 |
| ↓ |
| 研究発表論文概要 原稿送付締切：10月19日（木）15:00 （メール提出） |
| ↓ |
| 各種参加費納入締切：11月2日（木） |
| ↓ |
| 研究発表論文概要 配信（当日参加 URL 配信）： 11月10日（金）発表順を確認 |
| ↓ |
| 臨床美術学会 第14回大会2023 研究発表：11月18日（土） 14:30～15:30 研究発表① 15:30～16:30 研究発表② 上記のうち、発表12分／質疑応答3分 |

4. 自主シンポジウム（オンライン形式）申し込み方法

(1)申し込み方法

自主シンポジウム申込はオンラインでの大会参加申込時にご選択して頂く形で受付いたします。登録画面の参加オプション「自主シンポジウムタイトル・要旨・企画者・司会者・登壇者」をご記入の上、登録してください。

自主シンポジウム申込締切：2023年9月20日（水）

(2)自主シンポジウム受理確認

申し込み内容は、大会本部にて確認します。「申込受理」となりましたら、企画者の E-mail アドレスに申込受理のメールが届きます。申込受理の E-mail が 9 月 21 日（木）までに未着の際は事務局までお問い合わせください。

(3)自主シンポジウム原稿送付

自主シンポジウム趣旨・話題提供等の原稿は、**登壇者すべての原稿を企画者が取りまとめ**、下記 E-mail アドレスに word 形式のファイルを添付してお送りください。原稿内容に関しては、誌面上のレイアウト調整以外の誤字・脱字・変換ミスを含め、原則として事務局では校正・訂正を行ないませんので、送信者の責任において確認してください。

また、送付締切り後の原稿の変更は一切できません。重要事項の記載漏れのないよう、十分ご確認ください。

作成時の詳細につきましては「研究発表論文概要・自主シンポジウム原稿作成／送付要領」をご覧ください。

受付 E-mail アドレス：gakkai@arttherapy.gr.jp

自主シンポジウム原稿 送付締切：2023年10月19日（木）15:00（必着）

5. 自主シンポジウム（オンライン形式）について

●オンライン形式による自主シンポジウムとは

企画者またはそのグループによって、申込者自らがシンポジウムのテーマを設定し、司会者、登壇者、運営方法の一切を自由に企画し、開催する自主シンポジウムです。

司会者や話題提供者は発表内容をパワーポイントなどのプレゼンテーションツール（動画含む）にまとめ、オンライン上にて、画面共有で資料を提示しながら、話題提供やディスカッション、参加者からの質疑応答を行うなど、指定された時間内で自由に進行していただきます。

（1）自主シンポジウム資格要件

企画者は、原則として以下のいずれかに該当する者とします。

●臨床美術学会会員

司会者（企画者と異なる場合）、話題提供者などの登壇者

- ① 臨床美術学会会員
- ② 日本臨床美術協会会員
- ③ その他、臨床美術実践者等

（2）自主シンポジウムに関する制限

1人の企画者（またはそのグループ）として応募できるシンポジウムは、1件に限ります。話題提供者となる場合は、応募が重複しても構いません。

（3）自主シンポジウム申込とその受理

企画者は、指定された期日までに「大会事前参加登録申込」「自主シンポジウム申込」「大会参加費の納入」を行なってください。なお、前述のいずれかに遅れや不備等があった場合、自主シンポジウム申込が受理されないことがあります。

（4）研究発表論文概要への原稿の提出

発表代表者は、指定された期日までに自主シンポジウムの原稿を提出してください。

原稿の作成及び送付方法については、22ページからの「**研究発表論文概要・自主シンポジウム原稿作成／送付要領**」に従ってください。

(5) 自主シンポジウムの開催方法

大会当日、企画者、司会者、登壇者は、指定された開催時間に事務局の指示に従って、Zoomにて画面共有で開催してください。シンポジウム開催の持ち時間は1題につき、80分となります（自主シンポジウム開催責任時間）。

本大会では応募件数が複数になりましたら、Zoom ブレイクアウトセッションの機能を用いて、同時開催します。

大会参加者は、それぞれのシンポジウムのセッションルームを自由に移動することができます。開催方法の詳細は申込受理後、追ってご連絡いたします。

(6) 発表データ作成について

大会当日の自主シンポジウム発表データは、「研究発表論文・自主シンポジウム原稿作成／送付要領」の内容に照らし合わせて、パワーポイントほか類似するプレゼンテーションツールで作成してください。映像、動画なども用いて構いません。参加者へ内容がより伝わるよう創意工夫をしてください。

自主シンポジウムは登壇者自身でPC等を利用して行ってください。事前に必ずZoomミーティングにて画面共有が可能か、ご自身で動作確認をしてください。

(8) 自主シンポジウム申込から開催までの流れ

| |
|--|
| 自主シンポジウム申し込み締切：9月20日（水）（学会HPより） |
| ↓ |
| 自主シンポジウム受理確認 メール発信：随時 |
| ↓ |
| 自主シンポジウム原稿送付締切：10月19日（木）15：00（メール提出） 企画者が全ての登壇者の原稿を取りまとめ、提出してください。 |
| ↓ |
| 各種参加費納入締切：11月2日（木） |
| ↓ |
| 研究発表論文概要 配信（当日参加URL配信）：11月10日（金）を確認 |
| ↓ |
| 臨床美術学会 第14回大会2023 自主シンポジウム 11月19日（日） 11:30~12:50 |

研究発表論文概要・自主シンポジウム 原稿作成／送付要領

1. 研究発表論文概要原稿について

研究発表論文概要原稿は、WORD等の文書作成ソフトで作成(A4、1枚に印刷されることを想定して作成)し、PDFファイル形式にて、学会事務局アドレス(gakkai@arttherapy.gr.jp)までお送りください。

ご希望の方には、基本レイアウトに沿ったフォーマットデータをお送りします。研究発表論文概要原稿を送信する際には、PDFファイル形式で作成しお送りください。論文は、送信されたPDFファイルをそのまま使用して作成します。原稿ファイルを送信する前に必ず印刷をおこない、文字化けや文字つぶれ等がないことをご確認ください。なお、登録した原稿を修正(差し替えを含む)することは一切できませんので、ご注意ください。原稿全般に関してご不明な点があれば、学会事務局アドレス(gakkai@arttherapy.gr.jp)までご連絡下さい。

(1) 用紙

- ・1題の研究発表につき、A4サイズ1ページに限る。

(必ず1ページに収めてください)

- ・横書きとして、背景は無地とする。
- ・上下左右各20mmの余白をとる。

(2) 原稿の作成

- ・ページ上部に、発表タイトル(副題)・発表者氏名(所属)を大きく示す。
- ・発表タイトルと発表者氏名(所属)の下からは2段組で本文を書く。
- ・図表は本文内に掲載し、図表が要旨集原稿の40%以下になるようにする。

(3) 「発表タイトル・発表者氏名(所属)」について

A.発表タイトル

- ・ゴシック系フォント・中央揃え・要旨集原稿の中で、最も大きいフォントサイズ(12～14pt)とする。
- ・発表申込み時の研究発表タイトル(発表タイトルにはサブタイトルも含む)を記載する。
- ・サブタイトルは原則として改行して記載しフォントサイズは発表タイトルのサイズより小さくする。

B.発表者氏名(所属)

- ・明朝系フォント・中央揃え・フォントサイズ(12pt)とする。
- ・連名発表者がいる場合、筆頭発表者の氏名の前に○印をつける。
- ・所属は氏名に続けてカッコ内に記載する。

(4) 本文について

- ・発表タイトル・発表者氏名(所属)下を1行あけ2段組で作成する。段組の間隔は約2文字分あける。
- ・明朝系フォント・左揃え・フォントサイズ(10~10.5pt)とする。
- ・見出しをゴシックや太字にするなどして読みやすくする。

(5) 図表について

- ・図表にはタイトルをつける。複数の場合は通し番号をつける。
- ・本文中の図表数に制限はない。ただし要旨集原稿に占める図表の面積は40%以下とする。
- ・印刷した際に見やすいものとする。

(6) 書式

- ・書式については作成要領を守っていることを前提として、細部については発表者の判断に任せる。ただし、読みやすさを最優先して作成すること。

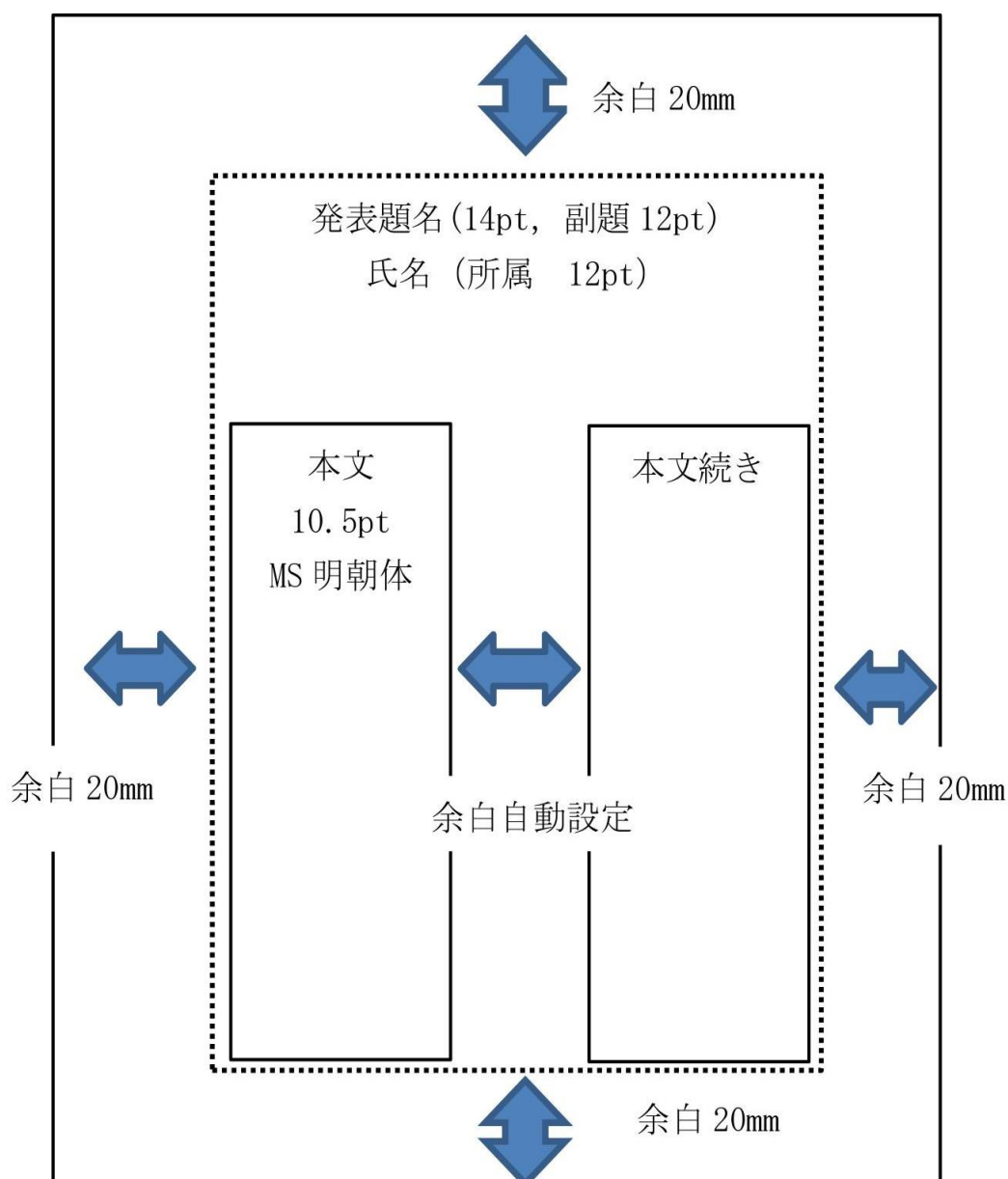
(7) その他

- ・原稿は所属先の研究倫理規定・倫理指針等に従い作成すること。
特に次の3点には注意すること。
 - 1 研究協力者がいる場合、事前に発表の承諾を取ること。
 - 2 研究協力者の人権に十分配慮していること。
 - 3 他の研究者などの文献から引用がある場合は出典を明記すること。
- ・原稿作成時、特に写真を用いる等の場合は、個人情報やプライバシーの保護に努め、
予め発表について対象者の了承を得るか、個人が特定できないように表現には十分留意
すること。

研究発表論文概要 原稿作成レイアウト

下記の図に従って作成してください。規定外の原稿は受理できませんのでご了承ください。また、送付された原稿はそのまま印刷しますので、一度提出された原稿の修正、取り下げ及び返却はできませんので、提出の際は十分ご注意ください。

原稿作成レイアウト【図】 A4 1 ページ



2. 自主シンポジウム 趣旨・話題提供等原稿について

自主シンポジウムの趣旨および話題提供等の原稿は、WORD の文書作成ソフトで作成(A4印刷されることを想定して作成)し、学会事務局アドレス(gakkai@arttherapy.gr.jp)までお送りください。

ご希望の方には、基本レイアウトに沿ったフォーマットデータをお送りします。

原稿を送信する際には、**各自主シンポジウムの企画者が、すべての登壇者の原稿を取りまとめた上、お送りください。**

原稿内容に関しては、誌面上のレイアウト調整以外の誤字・脱字・変換ミスを含め、原則として事務局では校正・訂正を行いませんので、送信者の責任において確認してください。

また、送付締切り後の原稿の変更は一切できません。重要事項の記載漏れのないよう、十分ご確認ください。

原稿全般に関してご不明な点があれば、学会事務局アドレス(gakkai@arttherapy.gr.jp)までご連絡下さい。

(1) 用紙

- ・1件の自主シンポジウムにつき、趣旨、話題提供を含めてA4サイズ総数5ページ以内に限る。
- ・横書きとして、背景は無地とする。
- ・上下左右各20mmの余白をとる。

(2) 原稿の作成

- ・ページ上部に、シンポジウムテーマ(副題)・企画者・司会者・登壇者氏名(所属)を大きく示す。
- ・テーマと登壇者氏名(所属)の下からは1段組で本文を書く。

(3) 「シンポジウムテーマ・登壇者氏名(所属)」について

A. テーマ

- ・ゴシック系フォント・中央揃え・要旨集原稿の中で、最も大きいフォントサイズ(12~14pt)とする。
- ・申込み時のシンポジウムテーマを記載する。
- ・サブタイトルがある場合は、原則として改行して記載しフォントサイズはテーマのサイズより小さくする。

B. 企画者・司会者・発表者氏名(所属)

- ・企画者と司会者が同一の場合は、「企画者・司会者」と記す)
- ・明朝系フォント・中央揃え・フォントサイズ(12pt)とする。
- ・所属は氏名に続けてカッコ内に記載する。

(4) 本文について

- ・1 ページ目には企画者がシンポジウムの趣旨を記載する。
- ・以後、ページごとに登壇者の話題提供概要をまとめ、ページ上部に登壇者（執筆者）の氏名（所属）を記載する。
- ・図表は本文内に掲載し、原稿の40%以下になるようにする。
- ・明朝系フォント・左揃え・フォントサイズ(10~10.5pt)とする。
- ・見出しをゴシックや太字にするなどして読みやすくする。

(5) 図表について

- ・図表にはタイトルをつける。複数の場合は通し番号をつける。
- ・本文中の図表数に制限はない。ただし要旨集原稿に占める図表の面積は40%以下とする。
- ・印刷した際に見やすいものとする。

(6) 書式

- ・書式については作成要領を守っていることを前提として、細部については発表者の判断に任せる。ただし、読みやすさを最優先して作成すること。

(7) その他

- ・原稿は所属先の研究倫理規定・倫理指針等に従い作成すること。

特に次の3点には注意すること。

- 1 研究協力者がいる場合、事前に発表の承諾を取ること。
- 2 研究協力者の人権に十分配慮していること。
- 3 他の研究者などの文献から引用がある場合は出典を明記すること。

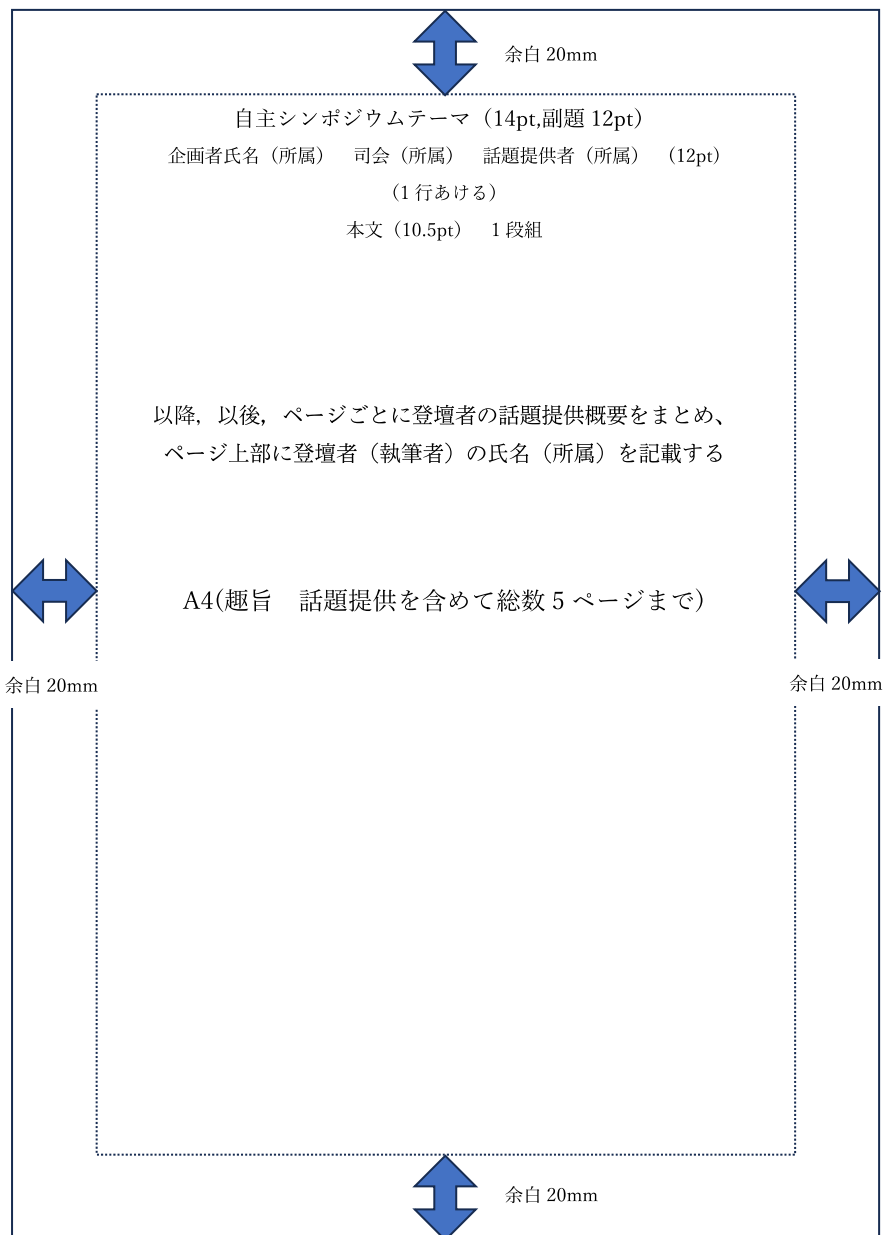
- ・原稿作成時、特に写真を用いる等の場合は、個人情報やプライバシーの保護に努め、
予め発表について対象者の了承を得るか、個人が特定できないように表現には十分留意
すること。

自主シンポジウム 原稿作成レイアウト

下記の図に従って作成してください。規定外の原稿は受理できませんのでご了承ください。また、一度提出された原稿の修正、取り下げ及び返却はできませんので、提出の際は十分ご注意ください。

自主シンポジウム 原稿レイアウト【図】

A4(趣旨 話題提供を含めて総数5 ページまで)



【 お問い合わせ先 】

臨床美術学会事務局

〒251-0047 神奈川県藤沢市辻堂 1-9-3

Shonan Eminence 3F

電話番号：050-6861-7227

FAX 番号：050-3537-8633

E メール：gakkai@arttherapy.gr.jp